

武蔵台緑地 生物多様性保全管理の記録 ①

1. ササ刈り

武蔵台緑地ではササ類の繁茂が激しく、一部では背丈を越すまでに育ち、林内が暗くなってしまっていました。それにより、①ササ以外の植物が育ちにくいため数が減り、生物多様性が低くなっている ②昼でも暗くて見通しが悪いため、ひとりで歩くのが怖い などの課題がありました。

令和4年度には鳥類保護ゾーン等を除く緑地内の全域でササの刈り取りを実施した結果、林内に陽射しが入るようになり、見通しも改善されました。

令和5年度は「武蔵台緑地 植生管理ガイドライン」（2020年 府中市発行）に示された、エリアごとのササの高さの目安を参考にササ刈りを実施しました。

B1エリア 「ササ類を選択的に刈る」エリア ササ類の侵入・定着を防ぐことを目標とする



作業前
ササはまだ細く・柔らかいが、全体に広がって生育している。



作業後
ササに埋もれていた植物が見えるようになった
シュンランの生育を確認することができた。



シュンラン

B2エリア 「腰丈を超えたら刈る」エリア



作業前
令和4年度の地際からの刈り取りから1年。再び背丈を超えるササが繁茂した。ただし、密度は低下している。



作業後
腰丈を超えたササのみ、地際から刈り取った。
見通しが良くなり、木々の幹の色や形の違いも楽しめる。
こういった管理を継続して実施することにより、林床の明るさが保たれ、多様な植物が生育する林となっていく。